

就活クエスト in OSAKA 2021 第1弾 実施報告

テ ー マ: 大学職員の仕事
実施日時: 2021(令和3)年12月18日(土)13:00~15:30
実施場所: オンライン(Zoom)
講 師: 近畿大学 経営戦略本部長 世耕 石弘氏
ファシリテーター: 大阪産業大学 キャリアセンター 就職支援課 課長 竹原 千絵氏
 (大学コンソーシアム大阪 キャリア支援部会 インターンシップ推進委員会 副委員長)
参加学生数: 8大学13名
 (大学別) 大阪市立大学3名/追手門学院大学1名/大阪経済大学1名/大阪産業大学2名/
 大阪商業大学3名/大阪女学院大学1名/近畿大学1名/四天王寺大学1名/
 (学年別) 1年生:1名/2年生:3名/3年生:8名/修士1年生:1名
企画・運営: 大学コンソーシアム大阪 キャリア支援部会 インターンシップ推進委員会
そ の 他: 学生は事前課題として大学職員の仕事について調べ、質問を用意して参加した。

1.事業趣旨:

オンラインツールを活用してバラエティに富んだ体験・成長のための表現(アウトプット)機会を提供し、学生における学修の深化および新たな学習意欲、そして実社会や「働くこと」に対する興味・関心を喚起させる。それにより、将来に対する選択肢の増幅および多角的・俯瞰的視点の獲得、自己理解に基づく主体的な職業選択や高い職業意識の涵養を目指し、ひいては自主性・独創性あるグローバル人材の育成に貢献することを目指す。

2.プログラム概要:

日程・場所	プログラム	内容
12月18日(土) 13:00~15:30 Zoomにて	オンラインミーティング	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラムの趣旨説明 ・講演:「大学業界が直面する課題とは？」 ・グループワーク テーマ:もし自分が大学職員になったら、直面する課題をどう解決する? ・グループ発表とフィードバック ・総括(あるべき大学職員の姿とは) ・大学職員からのメッセージ

3.講演概要

18歳人口の減少や国公立および大規模私立大学の定員増の可能性、新興勢力(デジタルコンテンツ配信中心の教育等)の台頭等により、大学業界は厳しい環境におかれている。大学職員はそれに打ち勝つ覚悟が必要であり、特に私立大学の場合は「経営感覚」が必要という意味において民間企業と変わらないと考えている。

一般的に大学職員は学生を支える裏方というイメージが強いが、実際には多様な部署および業務があり、どのような立場であっても自分の持ち場で一生懸命やれば、中心的立場になることや、時には大学の“顔”となることすらある。教員の立場ではできないことも職員の仕事のひとつであり、チャレンジ次第でできることは多い。

今後必要となるスキルであるDXに慣れ親しんでいる学生世代は仕事の最先端に立つ気概をもってほしい。消えてゆく大学もあり厳しい環境ではあるが、逆にいえば変化、そして改革の好機でもある。海外の大学にも目を向けるなどして従来の概念にとらわれない、自分なりの大学像を描いてほしい。

4.オンラインミーティングの様子:



5. 参加者アンケート:

別紙のとおり

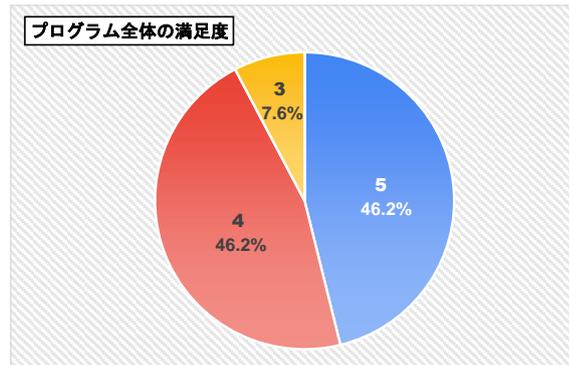
就活クエスト in Osaka 2021 第1弾 参加者アンケート

参加者数 8大学13名 (回答者数 13名)

1. プログラム全体の満足度

(単位:名)

5 (満足)	6
4	6
3	1
2	0
1 (不満)	0



2. 上記と回答した理由

【満足度5・4】

- ・多角な情報を得ることができた。
- ・大学職員の仕事や現状など知らなかったことをたくさん教えていただいた。
- ・自分と似た状況の他大学の方とグループワークを通して意見を共有し合えた。
- ・実際に面接をしている方の話を聞いて、目を通しておいたほうがいい項目について学べた。
- ・大学職員の仕事の課題ややりがい伝わった。
- ・私立大学の経営について知り、視野を広げることができた。
- ・自分自身の予習や心構えに足りない部分があったので、プログラムのすべてに対して満足感を得ることができなかった。
- ・緊張してグループワークのときに言いたいことが言えなかった。

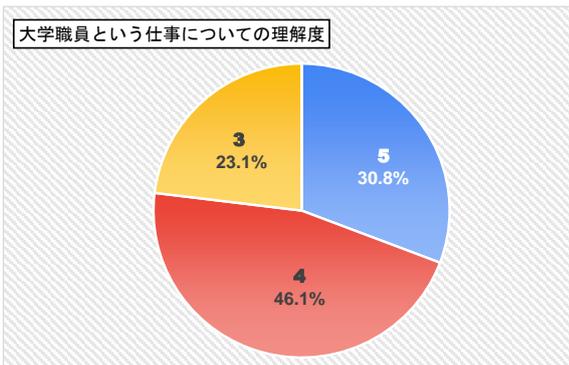
【満足度3】

- ・ブレイクアウトの時間が短すぎた。

3. 大学職員という仕事についての理解度

(単位:名)

5 (理解できた)	4
4	6
3	3
2	0
1 (理解できなかった)	0



4. 上記と回答した理由

【理解度5・4】

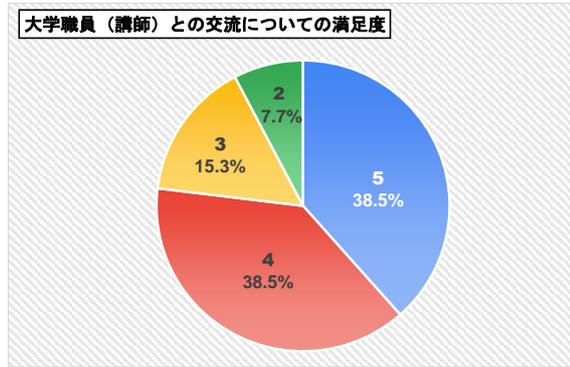
- ・今まで知らなかった仕事内容を知ることができた。
- ・想像していた大学職員とはまた違う視点で理解を深めることができた。
- ・もともと持っていたイメージとは違う業務内容だったので、とても刺激的だった。
- ・学生のサポート役や、裏方というイメージが強かったが、広報など大学を売り込むような主体的なことをしていることを知れた。
- ・実際に広報担当として働いている方が、何を考えながらどのような職務に取り組んでおられるかを聞くことができ、大学職員について理解を深めることができた。一日のタイムスケジュールなども興味があったので、実際に見せていただきとても参考になった。

【理解度3】

- ・大学職員の具体的なお仕事というよりは全体的な取り組みを教えていただいた。
- ・近畿大学のお金の話ばかりを聞いていた気がする。

5.大学職員（講師）との交流についての満足度 （単位：名）

5 (満足)	5
4	5
3	2
2	1
1 (不満)	0



6.上記と回答した理由

【満足度5・4】

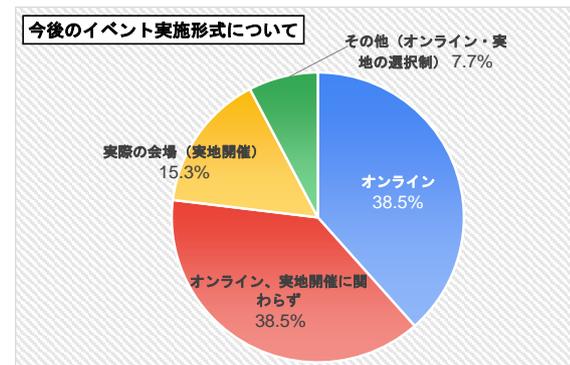
- ・分かりやすく説明して頂いた。
- ・大学の現状について事実を直接わかりやすく述べていただけた。
- ・仕事のいい部分は聞くことができるが、悪い部分や問題は今回のような時ではないと伺うことができないことが多いが、そういった情報を得るいい機会となった。
- ・講師と距離が近くて、大学職員の仕事の内容を知ることができた。
- ・二人の大学職員のお話を聞いた。
- ・疑問や質問にも丁寧に答えていただき疑問が解消できた。他の学生の事前課題の回答からも、大学職員の理解を深めることができた。

【満足度3・2】

- ・質疑応答の際に自分から質問をもっとするべきだと感じた。
- ・学生と講師の交流というよりは、大学職員同士のパネルセッションという面が強かったように感じた。
- ・話が長かった。

7.今後希望する実施形式 （単位：名）

オンライン	5
オンライン、実地開催に関わらず	5
実際の会場（実地開催）	2
その他（オンライン・実地の選択制）	1



8.上記と回答した理由

【オンラインを希望】

- ・面談で話しやすい。
- ・住んでいるところが京都なので、大阪までが遠い。
- ・対面はハードルが高い。

【実地開催を希望】

- ・コロナ禍の影響で、グループディスカッションなどを対面で行う機会がないため、実際に対面で行いたい。
- ・可能であれば現地で参加したいが、オンラインでも参加ができれば嬉しい。

9.今後、取り上げてほしい業界や職種

- ・環境業界、環境調査関連
- ・公務員、私立大学と国公立大学職員の比較（両者ならではの企画など）
- ・大学職員で広報以外の仕事内容
- ・普段学生が触れることのない業界、職種

10.その他、プログラムの感想・意見

- ・対面での開催もしてほしいと感じた。
- ・知らない知識を得るいいきっかけとなった。もっと知識を深めて今後の選択に活かしたい。
- ・私立大学の話ばかりだったので、国立大学の話をもっと聞きたかった。